

祀——又湯祭を龍祭と稱祀——又地蔵と附
き——くくくや正面の湯より地蔵の湯の方
地形言——或人由是依ハ湯由ハ沃の略也
といふ事今に承りて是を伝は後年湯治
の人と孫傳——くくにより山を平け沃を埋
て龍祭と——昔の地勢と據り——なりへ
被地の事龍を尋くくうち今おもふに龍
の一字兼け秋見く。龍記の因龍祭龍現ハ
湯水并所の水冠火龍をさふといふ事を
伝は命の記ハ予り心ふけ長徳寺の龍記
す

一書坪村

海色なり立岩として數十丈高き山岩あり
上は伝本忘れきり江方は宅ある（さ便る）
是古戦場の坪村中心をあらわして長武君を
頂上は隠——命を助るをさふ所なり矢除